

**北海道総合保健医療協議会  
令和5年度第4回救急医療専門委員会 議事要旨**

日 時：令和5年（2023年）10月16日（木）18:00～19:00  
場 所：オンライン開催（Zoom）

1 開会

2 議事

（1）協議事項

**議題① 新たな医療計画素案について【救急医療】**

（事務局）

資料1に基づき説明

（委員）

前回の議論がしっかりと反映されていることを認識。私からは意見がない。

（委員）

ひと通り見て、十分に議論が反映されていると感じた。特に意見はない。

（委員）

他の委員もご意見無いようなので、事務局案のとおり承認とする。

**議題② 新たな医療計画素案について【災害医療】**

（本間）

資料2に基づき説明

（委員）

資料のチーム数は北海道DMA Tの数か。人数の表示予定はないのか。

（事務局）

日本DMA T有資格者と北海道DMA Tとして認定しているものの、トータルの数値を記載している。人数の表示は考えていない。

（委員）

今後、計画的にチーム数を増やしていく予定はあるのか。

（事務局）

日本DMA Tについては厚生労働省の研修、北海道DMA Tについては、毎年

30名ほど養成している。

(委員)

中期的にどれくらい増やす予定なのかという意図でお聞きした。30名くらいずつ増やしていくということでもいいのか。

(事務局)

道DMATについては30名ずつ。日本DMATについては、研修の枠を増やしてもらえるよう毎年国に要望していく形で、少しずつ増やせるよう取り組んでいるところ。

(委員)

今のご指摘と同じ部分だが、道で有資格者数は把握しているか。

把握しているのであれば、人数を表示した方がより詳細なことが分かって、親切だと思う。かつ、日本DMATと北海道DMATに分けた人数の提示があってもいいかと思う。更に言えば、施設毎にも分かるよう記載いただいた法が良いのではないか。何か紙面の都合上などがあるのか。

(事務局)

全体の中でチーム数が一つのポイントであるため、今回はチーム数のみを表示。人数についても表示するという意見については、検討していく。ただ、施設毎となると、過去に整理されていない部分もあるので、個別と言うよりは全体で見せてまいりたい。

(委員)

災害のことを考えると、どの地域にどれくらいいるんだというのはそれなりに大事になると思う。毎年毎年把握するのは大変だとは思いますが、どこかの時点での、何年何月時点でのデータという提示で十分ではないかと思うので、検討いただければ。

(委員)

同じ意見だが、計画を建てる上で、足りない地域に重点的に養成することが大事だと思う。どの病院にどのくらいいるのか、というのは表示した方が良いと個人的に思うところ。

(委員)

複数の委員が同じ考えであるようなので、基本的には入れる方向で調整させていただきたいので、ご一任願う。

(委員)

計画は道内の災害に対する道の動きのようだが、4ページ目の課題の部分で、例えば胆振東部の時もであるが、災害時の通常医療が止まってしまった場合のサポートの問題。災害医療の部分に入れて良いのか分からないが、例えば南海

トラフや首都直下のような災害が起きた際、一番被災していないのが北海道であり、被災地から災害の患者が搬送され、その人数が多い場合の道内の通常医療の維持など。どちらかという通常医療の視点になるかもしれないので項目に入れるのが馴染むかは分からないが、その部分について課題に入れる必要があるのではないかと思うが如何か。

(委員)

追加の文言については、事務局と調整させていただきたい。

(事務局)

全国規模の災害が起きたときの北海道の役割ということだが、どこまで書けるのかということはある。ここは災害医療のフェーズで、道内災害が起きたときにどうするのかを書くところであるが、いただいたご意見は視点としては大切なところなので、内部で検討させていただきたい。

### 議題③ 新たな医療計画素案たたき台について【小児医療】

(事務局)

資料3に基づき説明

(委員)

移行期医療や小児の在宅の関係について、新たに追加いただいたのでわかりやすくなったと思う。素案に関しては特に意見はない。

(委員)

他の委員もご意見無いようなので、事務局案のとおり承認とする。

## (2) 報告事項

### 報告事項 札幌圏域江別地区における病院群輪番制病院の設置について

(事務局)

資料4に基づき説明

## 3 その他 (意見なし)

## 4 閉会